

# 春闘を職場から盛り上げよう！ 春闘標語10選を決定

## 2016春闘標語 10選

取り戻せ！ベアを笑顔で！いざ団結！！春闘は明日を照らす道しるべ！  
 (北海道地本) 工藤英之  
 みんなで闘い！みんなで勝ち取る！16春闘！(関東地本) 関俊一郎  
 なくせ貧困！許すな格差！勝ち取り大幅上げを！！  
 (関西地本) 森田祐稀  
 深めよう絆！勝ち取ろうペースアップ！(九州地本) 白川幸治  
 咲かせようベアの花！勝ち取ろう満額獲得！(東北地本) 佐藤久徳  
 高めよう組織の力！守ろう仲間職場！(東北地本) 橋本祐太  
 知恵出せ！声出せ！元氣出せ！皆で協力！一致団結2016春闘！  
 (東海地本) 古橋知明  
 格差をなくせ！みんなで勝ち取る16春闘！(関東地本) 山越一幸  
 雇用と生活を守る為、強い絆で一致団結！(北海道地本) 長谷川泰子  
 今こそ立ち上がろう！一致団結16春闘！(東海地本) 伊藤薫

# 第18回全国スノーフェスティバル開催！



2016年2月21日～23日 乗鞍高原

のために乗鞍の地まで足を運んでくれました。国会において貨物に対するモータリシフト実現に向けた助成を含んだ法律案づくりが進展していることが報告されました。スキーを通して組合員とひびき交え、身並なたしのかかる」を感じるとても良い交流の場となりました。

大会開催にあたっては、地元の人々が「100年ぶり」というほどの暖冬による危機的降雪不足によって大会コースの設置が危ぶまれましたが、大会コースの変更、また変更という形をとるなら準備委員とスキー場スタッフが苦勞をしながら無事に開催する事ができました。

大会は天気恵まれ、そのレース、デュアルスラローム、大回転競技を

- 全力で楽しみました。今回は目玉としてショートスキーとヒギナーズスキーボードクラスを混合した部門を作り、大いに盛り上がりを感じる大会となり多くの選手が表彰台に登ることができました。
- 次回2018年に関西・九州地本主催で開催される予定です。共通の趣味を持つ仲間と交流を深められるスノーフェスティバルに多くの組合員の参加をお待ちしています。
- 【大回転】
- スノーボードヒギナー・ショートスキー他
    - 1位 園上 哲也 組合員友人
    - 2位 辻 祥公 稲沢機関区
    - 3位 今瀬 拓哉 稲沢駅
  - スノーボードエキスパート
    - 1位 伊藤 俊和 稲沢駅
    - 2位 渋谷 純一郎 富山機関区
    - 3位 五十嵐 紀龍 吹田機関区
  - スキーヒギナー
    - 1位 小林 洋平 新潟貨物支
  - スキーアドバンス
    - 1位 西崎 俊明 札幌機関区
    - 2位 田川 延之 岡山機関区
    - 3位 加持 豊 五條機関区OB
  - スキーエキスパート
    - 1位 多胡 裕樹 高崎機関区
    - 2位 土師 朋喜 富山機関区
    - 3位 藤井 靖且 岡山機関区
- 【デュアルスラローム受賞者】
- スノーボードヒギナー・ショートスキー他
    - 1位 武藤 総裕 愛知機関区
    - 2位 新川真太郎 愛知機関区
    - 3位 川畑 旭 稲沢機関区
  - スノーボードエキスパート
    - 1位 多胡 裕樹 高崎機関区
    - 2位 楠田 良 吹田機関区
    - 3位 伊藤 俊和 稲沢駅
  - スキーヒギナー
    - 1位 小林 洋平 新潟貨物支
  - スキーアドバンス
    - 1位 加持 豊 OB
    - 2位 田川 延之 岡山機関区
    - 3位 西崎 俊明 札幌機関区
  - スキーエキスパート
    - 1位 前田 春生 OB
    - 2位 石田 聡 富山機関区
    - 3位 土師 朋喜 富山機関区

# JR総連2016 春闘セミナー

JR総連2016春闘セミナーが2月19日に都内で開催され、総勢100名が参加し、貨物労組と貨物労連から

15名が参加しました。連合の須田総合労働局長から「2016春闘生活闘争方針の特徴点について講演を受け、連合の春闘方針について分かりやすく提起されました。



決意表明では、貨物労連を代表して辻井事務局長(神奈川臨海鉄道労組委員長)から「貨物労連として連帯連携を強化し、各単組のヤマ場の交渉時期に激進行動を行い各単組の交渉を後押ししていく。JR総連春闘を貨物労連がけん

決意表明では、貨物労連を代表して辻井事務局長(神奈川臨海鉄道労組委員長)から「貨物労連として連帯連携を強化し、各単組のヤマ場の交渉時期に激進行動を行い各単組の交渉を後押ししていく。JR総連春闘を貨物労連がけん

# 東日本大震災から5年



全国から寄せられた旗

2011年3月11日14時46分、マグニチュード9.0の地震が東北地方を中心として東日本を襲いました。この地震により発生した津波により多くの命が失われ、死者・行方不明者は

中央本部対策室の設置  
 中央本部は震災直後と  
 なる3月14日に「東北地方太平洋沖地震対策本部」を設置しました。対策本部からの呼びかけもあり、震災直後の現地に  
 おいて不足していた食料やカリン、灯油などが  
 全国の仲間から支援され  
 ました。現地にいった仲  
 間は、仙台臨海鉄道や右  
 巻地区の津波による入換  
 機関車の脱線や散乱した  
 コンテナと貨車、瓦礫の  
 山と化した構内を目の当  
 たりにし、想像を絶する  
 被害に愕然としました。こ  
 あまりにも大きな被害で



たしる議員と共に走行を実現した石油輸送列車

あつから、現地を憂  
 慮する全国の仲間から物  
 心両面の支援が東北地方  
 に届き、東北地方の仲間  
 からも「ありがたい！元  
 氣が出る」という声があ  
 りました。

たしる議員と  
 一石油列車  
 震災直後、現地では物  
 資不足であり、特にガソ  
 リンが不足してしまっ  
 た。トラック輸送は道  
 寸断の影響でできないこ  
 とから、JR貨物労使は  
 鉄道を使った迂回輸送に  
 よる石油輸送列車を計画  
 しました。しかし、電力  
 が制限されていたため走  
 行が困難な状況におち  
 っていました。そんな  
 中たしる議員は仲間を思  
 い、JR貨物労組伊藤委員  
 長(当時)と共に当時  
 与党だった民主主義の震災  
 対策本部に出向き、電力  
 供給を求める交渉を行  
 いました。その結果として  
 鉄道への電力は確保さ  
 れ、「石油輸送列車」の  
 走行が実現  
 し、石油が被災  
 地に届けら  
 れました。後  
 に国土交通大臣から「命を  
 救った鉄道貨  
 物輸送」との  
 賞状を引き出  
 しました。こ  
 の「石油輸送

列車」が実現した背景  
 に、地元の救援のため  
 に慣れない線区を必死  
 に頑張って運んだ乗務  
 員の活躍も忘れてはな  
 りません。

たしるかおる  
 応援プロジェクトを  
 成功させよう。



津波により脱線した入換機関車